

古古酒 大吟醸「手取川」の発売にあたり

霊峰白山の源から発する手取川の清らかな水、その手取川によって形成された肥沃な扇状地から採れる良質の酒米、そして寒冷な気候が古来より手取川の流域に多くの造り酒屋を生み、銘醸地としての名声を得るにいった。その手取扇状地の、ほぼ中央に位置する白山市山島地区は、明治末期から大正にかけてほんの一時ではあったが「酒造りの村山島」として隆盛を誇った時代があった。水田の中に点在する僅か十二ヶ村の中に、豊かな川の恵みをそのまま酒名に冠して「手取酒」として全国に送り出したという。最盛期には、十数軒を数えた造り酒屋も現在「手取酒」の流れをくむのは、当社を残すのみとなっている。

手取酒の本流を引き継ぐものとして、一貫して量より質の姿勢を貫いてきた。その一つとして昭和三十年代より手がけた吟醸造りは、昭和四十七年、吟醸造りにはことのほか熱心であった主任鑑定官、故池見元宏氏の金沢国税局への着任により開花する。前杜氏より山本輝幸（能登杜氏）へと引き継がれた吟醸は、昭和四十七年以降全国新酒鑑評会金賞十七回、銀賞十二回、北陸三県新酒鑑評会優等賞 通算三十四回という輝かしい記録を生むこととなる。（平成二十六年現在）

今回、手取酒のきわみを御賞味いただく為、長期間低温で静かに貯蔵熟成させたのちこの製品を発売致しました。手取酒のロマンを感じていただければ、幸いです。

蔵元敬白

「尚、同封の和紙便箋と、和紙封筒は、大切な方への、御便りに、御使い頂ければ幸いです。」